

市木まちづくりセンターの新たな取組

事業名

ほたる鑑賞路整備 観光交流事業(ほたる鑑賞)

P

事業の目的(解決を目指す課題)や見込まれる成果

地域の財産である市木川に乱舞する「ほたる」を多くの方に鑑賞していただきたく、まちづくり推進委員会主催で「ほたる祭り」を開催してきたが、新型コロナの影響により2年続けて中止となった。今後も多くの人に見学、鑑賞してほしいという思いから、鑑賞路の整備を実施した。これにより地域の魅力発信と、地域資源の再認識、ふるさとへの愛着醸成を図る。

D

事業の概要

- 鑑賞路 300m(河川管理道)と鑑賞スポットの除草作業。
- 桃太郎旗、誘導灯の設置。
- マスメディアを活用してのPR(山陰中央新報、リビエール、いわみケーブルビジョン、浜田市観光協会、広報はまだ 等)
- 実施期間：令和3年6月10日から6月30日まで 参加者：推計約500名。
- ※平成8年にほたる増殖研究会が発足し、地域資源であるほたるの人工孵化に取り組んできた。また、生息環境の整備として河川除草を行うなど、地域全体で事業を展開している。

C

課題の解決度合(10段階の自己評価)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

							○			
--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

上記評価の理由

- マスメディアを活用することで広く広報できたことに併せ、参加者数が増加し、事業の活性化につながった。
- ほたるの飛翔も多く、天候にも恵まれ、多くの見学者があった。リピーターが多い。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと(評価を10に近づけるために)

- ほたるの飛翔、乱舞を見学できる場所を提供できることを「おもてなし」と心得、無理はせず長続き出来るように工夫する。
- 長期間、夜間の事業であることから、人員の配置は行わず、マスメディアを最大限活用しての広報。

